

初任者研修・新規採用者研修第10回は「人権教育の推進と様々な人権課題」をテーマに、豊中市教育委員会学校教育課の花山司主幹に講義をしていただきました。配付資料やミニワークを通して人権教育を基盤とした子ども理解や集団づくりについて考え、「学校」という場所で子どもたちとともに過ごす教職員としての心持ちや関わり方を見つめ直しました。後半は様々な人権課題について、法令や社会情勢、実際の学校生活でのようすと結びつけながら対応を考えました。

～振り返りシートより～

子どものありのままを肯定的に捉えることや、生活背景を含めて丁寧に理解すること、集団の中で子ども同士のつながりを見ることなど、改めて自分はできているのか考えました。毎日バタバタとした学校生活の中で子ども理解が十分ではないと思います。がんばった過程や間違えても認めてもらえる空間づくりをしたいと思います。

傷つけるつもりでなくても相手を傷つけてしまうかもしれないことがあり、自分も無意識のうちに「～してあげて」と言っていたかもしれないと思いました。してあげる・されるの関係になってしまふことを学びました。人権は「見ようとしなないと見えない」という言葉が心に残りました。これからもアンテナを張って過ごします。

学級の子どもたちが安心して過ごせるようにしたいとは思っているものの、具体的に気をつけていることや、このメッセージを伝え続けているということではできていなかったように思います。もめ事が起こったときこそ学級がよくなるチャンスだと考えるようにしたいと思いました。子どもたちとしっかり向き合い、何がよくなかったのか、どうすればよかったのかを一緒に考えることで、子どもたちが自分や他人を大切にしたいと思うきっかけにしていきたいです。

集団づくりでは、「一人ひとりが成長できる集団をつくること」を目的に取り組んでいく必要があると学びました。学級経営や集団づくりをおこなう上で、「子どもが輝く場面づくり」や「もめ事を主体的に解決する力」など、9つの視点をもっておくことで取り組みが思いつきやすくなると思いました。

運動会が終わり、全員が楽しく笑顔で取り組めたと思っていましたが、「行事の中でクラスのつながりをどう深めるかが大切」というお話から、果たして運動会を通してどのようにつながりを深めることができたのかと疑問に思いました。今後の行事を通してどのようにクラスのつながりを深めるかを考えながら取り組んでいきたいです。

学校事務職員の立場として、子どもの貧困については関わっていくことができる課題だと感じました。例えば、生活保護を受けている家庭の修学旅行の援助などは制度を活用し、子どもたちが満足する教育を受けられるようにしたいです。就学援助の制度など学校事務職員の知識や経験を先生方に伝えていくことでスムーズに保護者への周知などがおこなえると思いました。

今回の研修は自分のクラスづくりを見直す機会になりました。改めて振り返ると、何を一番大切にしてきたか、伝えてきたか、自分の中で大事にしているものがブレてきている気がしました。研修資料の中にあるチェックリストなどを使って、もう一度自分の頭の中を整理できた気がしました。クラスの課題やどんな力が必要なのかを考え、子どもたちに伝えていきたいです。

子どもたちとの関わりについて改めて考え、これまでの自分を振り返る機会になりました。つい先日の生徒指導の中で、自分の思いを言葉にできず半ば諦めているように見えたあの子の姿は、まさに「一番困っている子」という言葉そのものでした。その子のよさをしっかり見て、それを広げていけるように伴走したいと改めて思いました。

子どもは先生がどのように人と接しているかをよく見て、よく覚えていると感じています。教師の立場でできることは、まず自分自身が確かな人権感覚に基づいて人と接し、子どもに見せることが最低条件なのではないかと思いました。今回の研修では様々な視点から子どもの人権について学ぶことができました。

オンライン実施（選択制）の第8回「人権について考える①」で仲島先生がおっしゃっていたことともつながりますね。「教職員として」というより、人としてのあり方が問われているように思えます。子どもたちのためにも日々人権感覚について磨き続け、人権課題について学び続ける必要があります。



今回の研修内容で、今はあまりピンとこない人権課題もあったかもしれません。来年も再来年も、場合によっては向こう10年、出会わずにやり過ごしてしまうこともあるかもしれません。やり過ごすというのは、実際は見過ごしていた、見逃していたと言い換えられるでしょう。「いずれどこかで」なのか、「もうすでに」なのか、講義にあった「見ようとしないと見えない」という言葉を忘れず、まずは知ること・知ろうとすることを大切にしてください。それは、豊能地区がめざしている「子どもとともに学び続ける教職員」ということなのでしょう。

- 子どもの虐待は、**通告で終わりではなく、支援の始まり**という言葉にはっとさせられました。
- 外国にルーツがある子ども**への差別や、いじめのお話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- 子どもの人権を守るために、懇談など保護者と話す機会にしっかりと家でのようすを聞いて、何か困り事があれば各関係機関へつなぐことが大切だと思いました。
- ここ近年の「コロナによる差別」についての視点**をもつことができ、クラスの中にあるちょっとした言葉に注意深くしていかなければならないと実感しました。また、差別に気づくことができるように、「おかしい」と思ったことを言えることや、私自身がスルーせずに立ち止まって、クラスで考えられる状況をつくることが求められているとも思いました。
- 本当にたくさんの人権課題があることがよくわかりました。**知ろうとしないと気づかないことがたくさんあると気づく**ことができました。**新しい情報を得るには「意識すること」が必要**だと感じました。
- これまでも人権の研修を受けて学んできましたが、言葉にすることがなかなか難しいと思ったので、**これからも継続的に学んでいかなければいけない**と思いました。

担任だけでなく、様々な立場や場面から子どもを理解し、見守ることの大切さを学年や学校で共通認識していけるとよいですね。もちろん、困ったことや悩んでいることを報告するだけでなく、子どもたちのささやかな成長や活躍も普段から教職員で共有するようにしたいですね。前向きな気持ちは自分や集団をよい方向へ運んでくれて、明日への活力にもつながります。



※研修時に配付した人権教育や学級集団づくりに関する参考資料は、大阪府教育センターWebサイト「教職員の方々へ」の「教材・資料等」からダウンロードできます。

https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights_top.html

また、人権課題についてテーマごとの研修・研究会等も所属市町実施のものや校内研修等で学ぶ機会があります。



みなさんは毎回の研修の前後で、研修内容について校内の先生とお話をされていますか？

研修内容を話題に管理職の先生や学年の先生、初任者指導の先生などと校内でお話することで日々の実践とつなげてください。学んだことや気づいたことをアウトプットすることで、研修での学びを研修のときだけの学びにとどめず、確実に自分のものにしていきましょう。先輩方にとっても自分の実践や指導を振り返るきっかけになります。(先輩方の貴重な経験談やこぼれ話を聞けるチャンスかもしれません。)お互いに「学び続ける教職員」であるためにも、ぜひ研修でつながってください。

また、毎回の振り返りシートや研修通信は、実施から少し期間をおいて返却・配付をしていますので、前回までの学びをおさえ直し、積み上げるようにして着実にステップアップしていきましょう。

教え上手、教わり上手であれ!～じょうずな大人の聞き方「あいうえお」～

- あ…「あいさつ」ついでにもう一言！（その日のこと、最近のようすを聞いてみましょう！）
- い…「一緒になる」機会は参考になる！（学年の先生以外でも何かとご一緒する人がいるのでは？）
- う…「嬉しかった出来事」を共有する！（楽しい話題のほうが聞き合いたいですよね！）
- え…「笑顔」が大事！（笑顔で聞いて、笑顔で終われる聞き方は次回につながります！）
- お…「教わり方」を問い直す！（みなさんはどんな教わり方がよいと考えていますか？）

